

平和行進団に市長がエール

「歩く」という行動で核戦争阻止などの要求を示し、沿道の住民に賛同をよびかけ、原水爆禁止の要求を結集していく平和行進思想・信条・政治的立場のちがいをこえて協力し、平和行進は日本全国にひろがっています。瀬戸街道を歩くコースに尾張旭市は昼食休憩の場所を毎年提供しています。いつもは代読メッセージでしたが、今年は市長が会場にあいさつにみえました。その光景に目が潤んでしまいました。

(以下は行進団手記を要約したものです。)

尾張旭市では、市庁舎正面玄関に掲げられている「非核平和都市宣言」の横幕を見ながら行進。市長メッセージが紹介されました。

その後、昼食時間に市議会本会議の休憩時間を使って谷口幸治市長があいさつにかけつけ行進団を激励。3月に非核平和都市宣言したことを聞き、参加者一同で拍手。



昼食会場での、市長あいさつ
(右から2人目)

川村つよし尾張旭市議が議会での働きかけを行ってきたこと間の経過を報告。平和行進も世論を作る力になっていくと語りました。

守山区まとめ集会(守山生涯学習センター)は、1958年当初から参加している大島さんによるミニ学習会。

平和行進を始めた西本敦さんが愛知県と深い結びつきがあったとして、小牧空港拡張反対運動に日本山妙法寺として参加していたことを紹介。

また国民的運動として行われた平和行進のエピソードとして、瀬戸では天皇結婚式に送られた陶磁器を作った陶芸家が、第1回目の行進に瀬戸商工会会頭として賛同したこと、学校、婦人会の参加応援など、まさに町ぐるみの平和行進だったことを紹介。

当日、沿道での募金が7万6674円、署名が478筆、集まりました。

盛況 議会傍聴 3日間で114人

6月市議会では、本会議に大勢の方が傍聴にみえました。

市議会議員選挙後、最初の議会質問ということも手伝って多数の傍聴になったとも思いますが、当選した議員を環視するのは市民の責務だと思います。傍聴することが議員の成長の糧にもなります。

3日間の日程でも多かったのは、13日(月)で60名。議場に入れなかった方も30人ほどいたそうです。市財政のことを問う坂江議員の質問への傍聴ですが、内容としては「地方交付税」や「臨時財政対策債」に対する考え方が、市と全くずれており、かみ合わない内容に終始していました。

ある市職員は「財政がたいへんだと不安ばかりをあおる、

靈感商法のような質問だ」と、嘆いていました。

住民も見る目を養う必要があります。



川村議員の質問には、20人ほどの傍聴がありました。質問項目は前号で掲載しましたが、選挙前に党市議団が求めた、戸建ての住宅に対する耐震補強補助が補正予算で増額され、5軒分の補助枠を追加したことが答弁で紹介されました。

傍聴にみえた方からの意見を、一部紹介します。

●議会傍聴は傍聴席からは議員の後姿しか見え、議員も沢山傍聴に来ている事かわからないし(これは、気配を感じるので、なんとなくわかるそうです。)傍聴に来ている人は議員がどんな真剣にやっているのか顔が見えない!

1階のモニターテレビで映し出される議会の様子の方が傍聴席より議員の気持ち伝わってくる。

議員も「見られている」「今回はどんな質問をしているかすぐ分る」という緊張感が伝わるような議会改革をしていく必要があるのかなと感じた。月遅れの議会便りでは緊張感が無い。

●傍聴席でもメモ取りたい時があるけど記者席の様になっていない。記者がいないうときには使用可能にしてほしい。

●あの議員は、もしかしたら寝ているのでは?

なお今年度市議会のインターネット中継が始まる予定です。